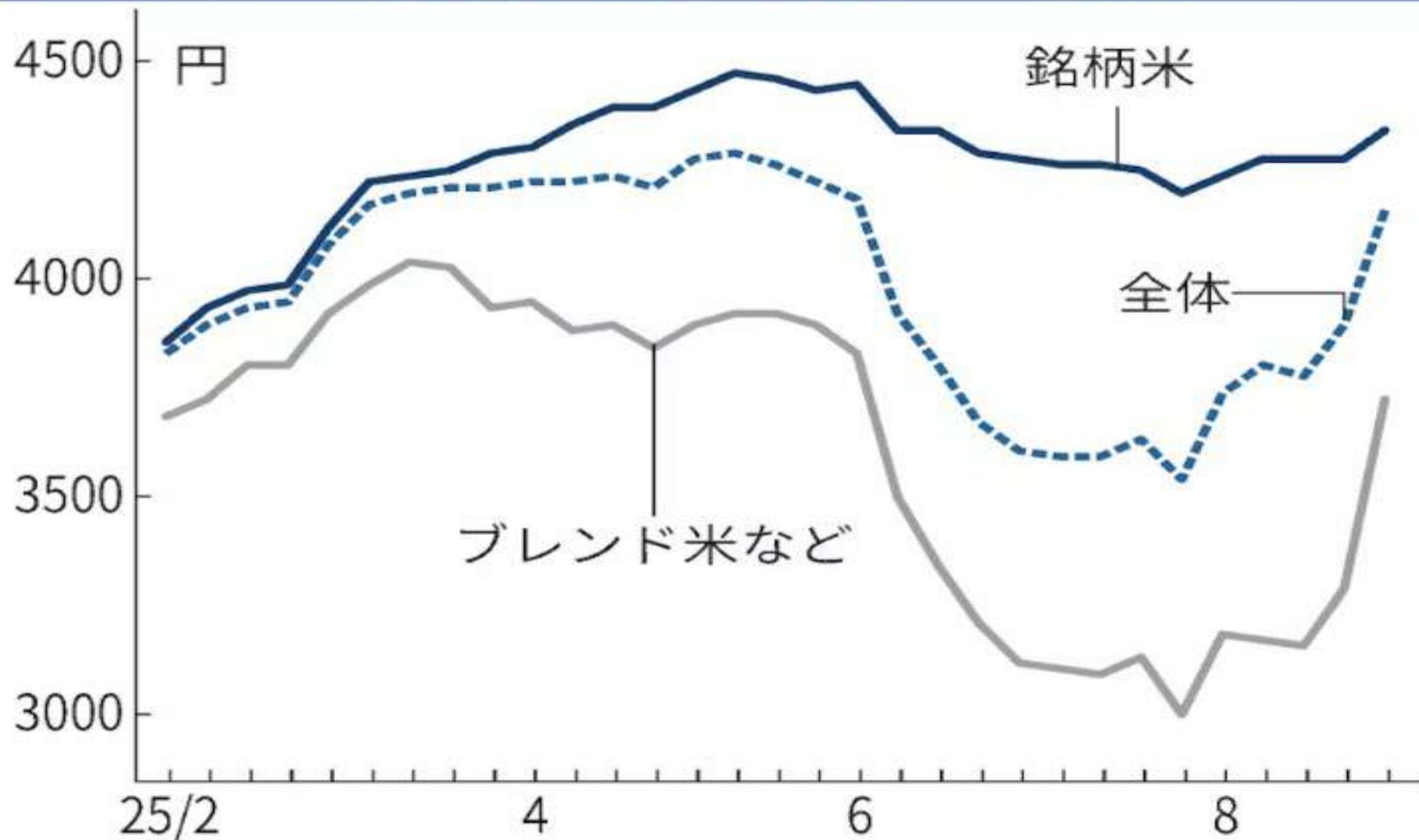


お米騒動と「食と農の格差」
—減反、大規模化…日本の農政を検証する
PARC学習会資料

コメの店頭価格は再び4000円台に



(注) KSP-SPが分析した5キログラムの平均店頭価格。
出所は農林水産省

「コメ1年買っていない」 困窮家庭の切実な声 支援団体 アンケート

有料記事

高絢実 2025年6月26日 15時00分



[list](#) 2



困窮する子育て家庭への支援を呼び掛ける「キッズドア」の渡辺由美子理事長（左）＝2025年6月25日、東京都千代田区

止まらない物価高やコメの高騰が、困窮する子育て家庭を直撃している。「長期休みは給食がないので食費に余裕がなくなる」「高くてもコメを1年間買っていない」。支援団体のアンケートには切実な声が寄せられ、夏休みを前に協力を呼び掛けている。

認定NPO法人「グッドネーバース・ジャパン」（東京都）は6月3日～11日、学校給食がなくなる長期休みの状況を尋ねるアンケートを実施。低所得のひとり親家庭の保護者2105人が回答した。



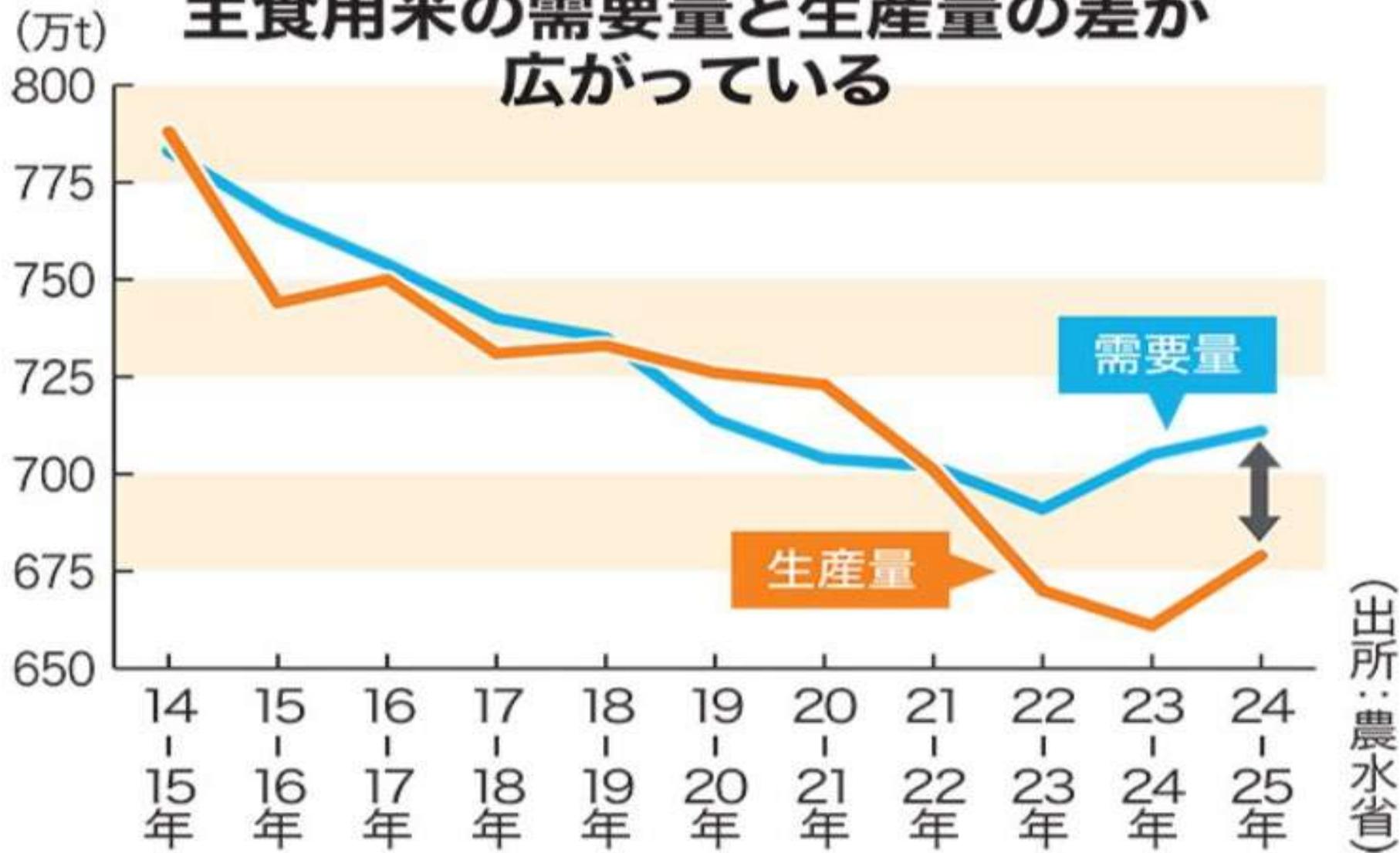
《検証》

- (1) 農林水産省は、人口減少等による**需要のマイナス・トレンドの継続**を前提として、翌年産の需要量の見通しと生産量の見通しを作成（令和4年秋・令和5年秋）。また、生産量の見通しにおいても、精米歩留まりが低下していることを考慮していなかった。
- 他方、実際の生産量及び在庫量から計算した**需要量(玄米ベース)**は、令和4/5年と比較して、令和5/6年、6/7年は**増加**。また、精米とう精数量から推計した**需要量(精米ベース)**でも、令和4年産と比較して、令和5・6年産は**増加**。
- その要因は、高温障害等により**精米歩留まりが悪かった**ことから、玄米ベースでの**必要量が増加したこと(供給面の要因)**に加え、**インバウンド需要**や、**家計購入量の増加**など**一人当たり消費量の増加**によるものと考えられる。
- この結果、生産量は需要量に対し**不足**（令和5/6年：40～50万トン程度（需要量比：6～8%程度）、令和6/7年：20～30万トン程度（需要量比：4～5%程度））し、**民間在庫を取り崩し**、**需要量に見合う供給量を確保せざるを得なかった**。
- (2) **民間在庫**は、多くが既に売り先が決まっているものであり、緊急事態に対応できる**バッファーになり得ない状況**。**民間在庫の減少**に伴い、流通段階では、次年度の端境期に**米が不足するとの不安**から競争が発生。卸売業者等では、新規の調達ルートを開拓したり、同業者間で取引する**スポット市場**を通じて、**比較的高い価格の米**を調達。
- (3) これらが**米価高騰の要因**となる中、農林水産省は、**生産量(玄米ベース)は足りているとの認識**の中で、
- ①**流通実態の把握に消極的**であり、**マーケットへの情報発信や対話も不十分**。
 - ②**政府備蓄米**についても、不作時に備蓄米を放出するというルールの下、**放出時期が遅延**。こうした対応の下で、卸売業者等の不安感を払拭できず、**更なる価格高騰**を招致。

《今後の方向性》

- ①需給の変動にも柔軟に対応できるよう、官民合わせた備蓄の活用や、**耕作放棄地も活用しつつ、増産に舵を切る政策への移行**
- ②農地の集積・集約、大区画化や、スマート農業技術の活用、新たな農法（節水型乾田直播等）等を通じた**生産性の向上**
- ③米国の関税措置による影響を分析しつつ、増産の出口としての**輸出の抜本的拡大**
- ④**精米ベース**の供給量・需要量や消費動向の把握等を通じた、余裕を持った**需給見通しの作成と消費拡大**
- ⑤**流通構造**の透明性の確保のための実態把握や流通の適正化を通じた**消費者・生産者等の納得感の醸成**
- ⑥作物ごとの生産性向上等への転換、環境負荷低減に資する新たな仕組みの創設等を通じた**水田政策の見直し**（令和9年度）等

主食用米の需要量と生産量の差が 広がっている



2025年8月9日

農水省幹部が陳謝 米流通混乱巡り



| ニュース | ニッポンの米

X X

f Facebook

LINE Line

✉ Mail



陳謝する農水省幹部（8日、東京・永田町で）

農水省の渡邊毅事務次官らは8日の自民党農業基本政策検討委員会で、昨年から続く米の流通混乱を招いたとして陳謝した。渡邊氏は「『米は足りている』という前提で行政を行ってきたが、その見通しが誤っていた」と指摘。「米が足りているとずっと申し上げていたことについて謝る」と述べた。

同省の事務方トップである事務次官が党会合で謝罪するのは異例。渡邊氏に加え、山口靖農産局長、山口潤一郎農産政策部長、武田裕紀農産局総務課長ら、米政策に携わる同省幹部が陳謝した。

昨年から続く米の価格上昇を巡り、政府は5日、需要に対して生産が不足していたことが要因だったとする検証結果をまとめた。同省の需給見通しが甘かったことが背景にある。同省が「生産量は足りている」という認識のまま、必要な対応を取らなかったことが、「さらなる価格高騰」を招いたとも指摘した。



保存

長期的な主食用米の価格の動向

(単位: 円/60kg)



資料: (財)全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「相対取引価格」

注1: 価格には、包装代、運賃、消費税相当額等を含む。

注2: 年産別平均価格(令和6年産は、出回りから令和7年6月までの速報値)。

※・コメ価格センター取引は、自主流通米の指標価格の形成を図るために実施されていたが、平成16年の食糧法改正により計画流通制度が廃止され、義務上場がなくなったこと等を背景に取引が低調となり、平成21年産をもって取引を中止。
 ・コメ価格センター取引が低調となったことを受けて、コメ価格センター取引価格の指標性を確認する観点から、相対取引価格について、農林水産省が18年産米から年間取扱数量5,000ト以上の全国出荷団体等と卸売業者の取引価格を調査、公表。その後も米の価格動向を把握するため引き続き実施。

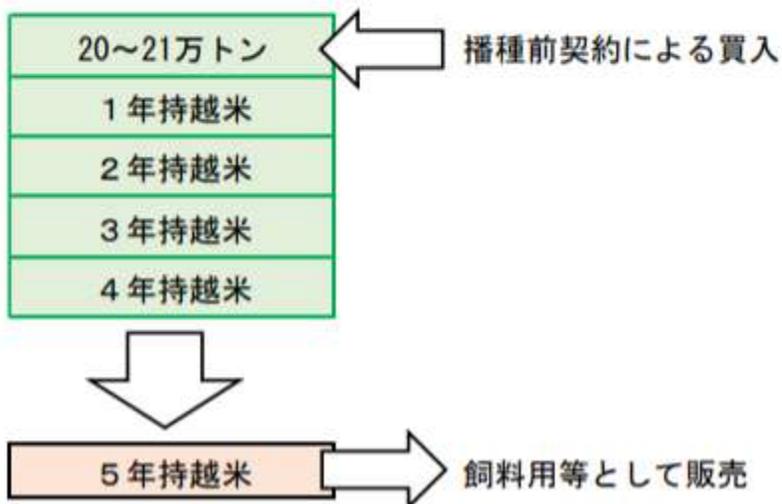
政府備蓄米の運営について

- 政府米の備蓄については、適正備蓄水準を100万トン程度として運用（10年に1度の不作（作況92）や、通常程度の不作（作況94）が2年連続した事態にも国産米をもって対処し得る水準）。
- 備蓄運営については、政府による買入・売渡が市場へ与える影響を避けるため、通常は主食用途に備蓄米の販売を行わない棚上備蓄を実施（備蓄米を供給するのは、大不作などの場合のみ）。
- 基本的な運用としては、適正備蓄水準100万トン程度を前提とし、毎年播種前に20万トン～21万トン（※）買入れ、通常は5年持越米となった段階で、飼料用等として販売。

※ 基本的な買入数量については、従来、毎年20万トン程度とし、CPTPP協定後は豪州枠の輸入量に相当する量を加えた21万トン程度としてきたが、会計検査院の指摘を踏まえ、今後、豪州枠の輸入量に相当する量の買入れは、実際に豪州から輸入される数量に見合った規模となるよう見直し。これに即して備蓄運営が行われれば、基本的な買入数量は20万トン～21万トンとなる。

基本的な政府備蓄米の運用

原則20～21万トン × 5年間程度 → 100万トン程度



政府備蓄米の現在の在庫状況

【最近の買入数量】

令和元年産	18万トン
令和2年産	21万トン
令和3年産	21万トン
令和4年産	20万トン
令和5年産	19万トン
令和6年産	17万トン（予定）

【現在の備蓄状況】



注：ラウンドの開催で在庫量と内訳が一致しない場合がある。

令和6年6月末

4回目は備蓄米10万トンを放出する

	初回	2回目	3回目	4回目
入札実施期間	3月10～12日	3月26～28日	4月23～25日	5月28～30日
落札数量（トン）	14万1796	7万336	10万164	10万482
落札率（％）	94.2	100	99.97	—
落札価格（円）	2万1217	2万722	2万302	—
放出する備蓄米の内訳	24年産が10万190トン、23年産が4万1606トン	24年産が4万179トン、23年産が3万157トン	全て23年産	24年産が1万19トン、23年産が1万20トン、22年産が8万443トン

(注) 平均落札価格は60キログラムあたり、税抜き、4回目は入札対象数量

日本経済新聞2025年5月16日

備蓄米の随意契約の主な申請業者

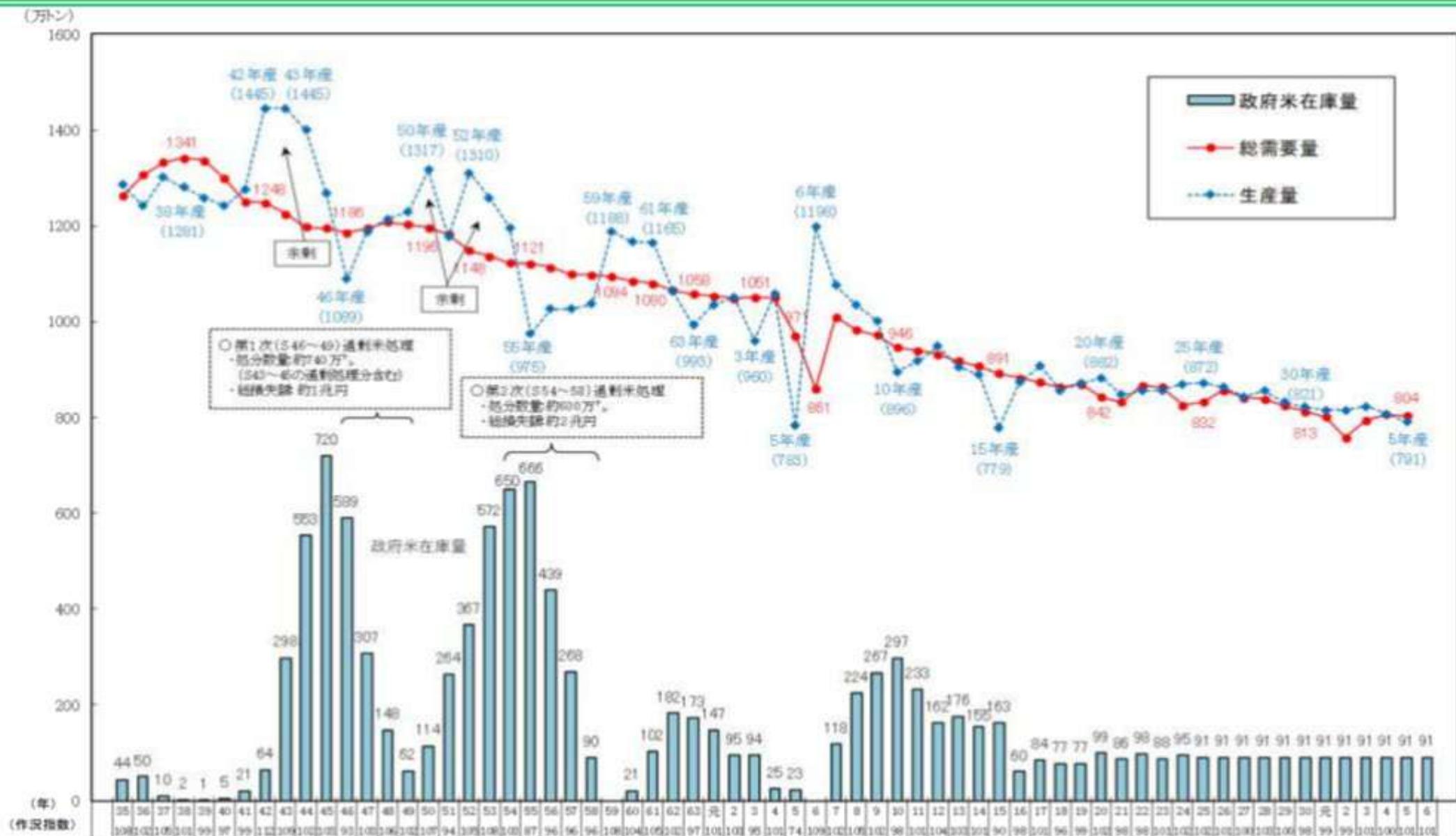
業者名	申込数量(トン)
イオン商品調達	2万
PPIH	1万5000
サンドラッグ	1万2866
オーケー	1万500
アイリスアグリイノベーション	1万
楽天グループ	1万
OICグループ	1万
LINEヤフー	約1万
ヤオコー	9944
万代	8000
諸長	6000
JMHD	6000
ゲンキー	6000
カインズ	5000
シジシージャパン	5000
ミスターマックス	5000
イトーヨーカ堂	5000
ファミリーマート	3000
約70社	20万超

(注) 農水省発表や各社への取材をもとに作成

図表を保存

日本経済新聞2025年5月27日

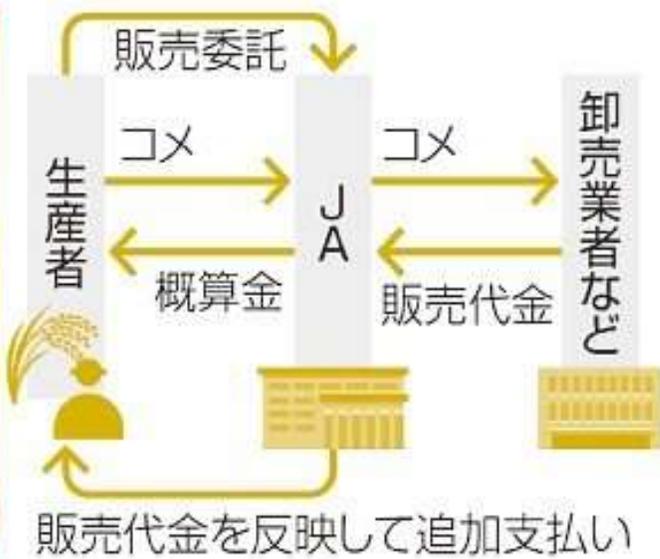
米の全体需給の状況（昭和35年～）



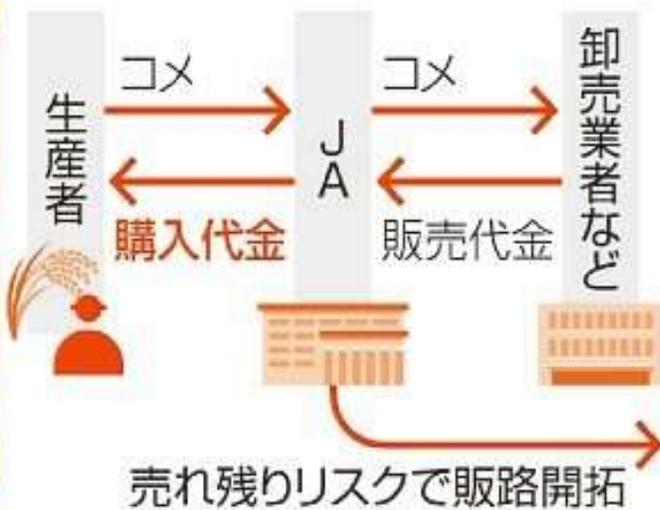
注1. 政府米在庫量は、外国産米を除いた数量である。
 注2. 政府米在庫量は、各年10月末現在である。ただし、平成15年以降は各年6月末現在である。
 注3. 平成12年10月末の政府米在庫量は、「平成12年緊急総合米対策」による援助用隔離等を除いた数量である。
 注4. 総需要量は、「食料需給表」(4月～3月)における国内消費仕向量(雑穀を含み、主食用(米・粟・米穀粉を含む)のほか、飼料用、加工用等の数量)である。ただし、平成5年以降は国内消費仕向量のうち国産米のみの数量である。
 注5. 生産量は、「食料需給表」における国内生産量(「作物統計」の水陸稲の収穫量の合計に、飼料用米の数量を加えた数量)である。

概算金と直接買い取りのイメージ

概算金

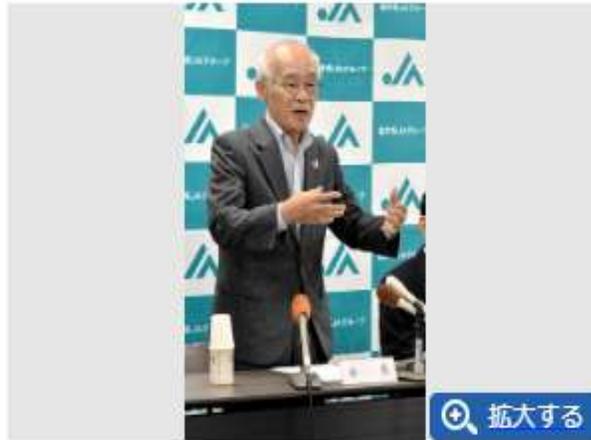


買い取り方式



小泉農政に反対姿勢 JA福井県5連の宮田幸一会長 コメの概算金「重要な役割」 作況指数廃止「基準おかしくなる」

2025年6月28日 午前6時20分



記者会見する宮田会長 = 6月27日、福井県福井市の県農業会館

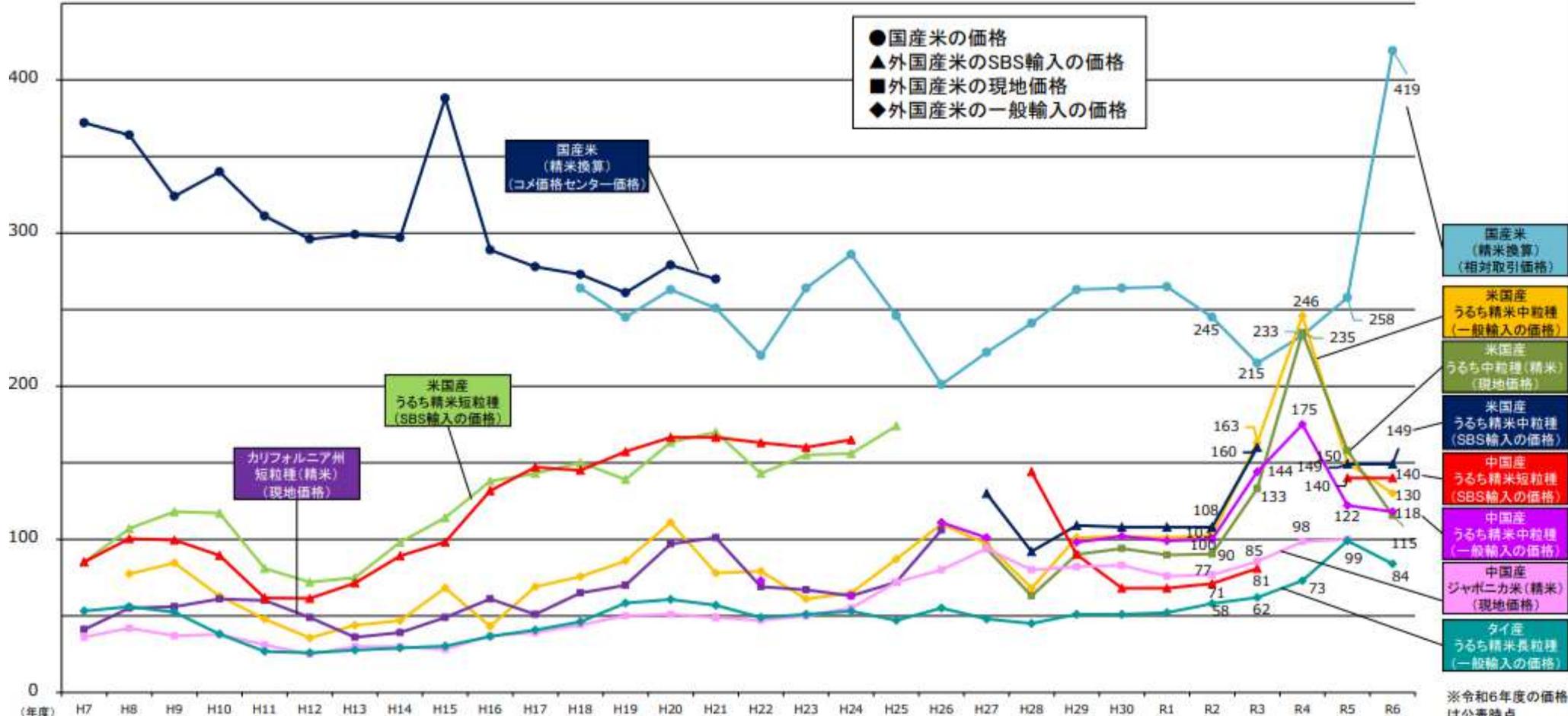
JA福井県5連の宮田幸一会長は6月27日、福井市の県農業会館で記者会見した。小泉進次郎農相が全国農業協同組合中央会（JA全中）へ要請したコメの概算金方式の見直しについて「生産者価格を決定する上で重要な役割を果たしている」として反対姿勢を示した。また、作況指数の廃止方針についても異議を唱えるなど、小泉農相の政策方針に疑問を呈した。

コメの概算金方式は、農家がJAに委託して

コメの内外価格差

- 米国产中粒種の現地価格は、令和4年度は干ばつの影響で歴史的に高騰したが、令和5年度以降は下落。
- 国産米と海外との価格差は大きい。

円/kg(精米ベース)



注1: コメ価格センター価格は、消費税等を含まないものであり、玄米の価格(年産ベース)を精米換算(とう精代等は含まない)したもので、(全銘柄加重平均価格)
 注2: 相対取引価格は、消費税等を含まない価格を試算したものであり、玄米の価格(年産ベース、当該年度の出回りから翌年の10月(令和6年度は出回りから令和7年6月までの価格)を精米換算したもので、(全銘柄加重平均価格)
 注3: SBS輸入の価格は政府買入価格(年度ベース)であり、港湾経費を含む(加重平均価格)。平成26年度の米国产うるち精米短粒種、令和4年度の米国产うるち精米中粒種、25年度~27年度及び令和4年度の中国産うるち精米短粒種の輸入実績はない。
 注4: 一般輸入の価格は政府委託契約価格(年度ベース)であり、港湾経費を含まない(加重平均価格)。平成21年度以前及び平成23、25、28年度の中国産うるち精米中粒種の輸入実績はない。
 注5: カリフォルニア州短粒種(精米)の現地価格は、現地精米所出荷価格(暦年ベース)、「USDA Rice Yearbook」(米国農務省)。平成23年1~10月のデータはなし。
 注6: 米国产うるち中粒種(精米)の現地価格は、業界誌に掲載した月初のFOB価格(当該年度の9月~3月の平均価格(令和6年度は9月~3月の平均価格))。
 注7: 中国産ジャポニカ米(精米)の現地価格は、平成21年までは現地市場における精米の卸売価格。平成22年、23年は現地市場におけるもみ米の卸買付価格を精米換算(換算率は米国農務省データによる)したもので、平成24年以降は卸売市場における精米の卸売価格(いずれも暦年ベース)。「中国農村復興発展報告」(中華人民共和國農業者部)
 注8: 為替レートは「International Financial Statistics」(IMF)。
 ※令和6年度の価格は公表時点(令和7年7月)。詳細は各注に記載。

水田の半分は 規模5ha未満の農家が担う



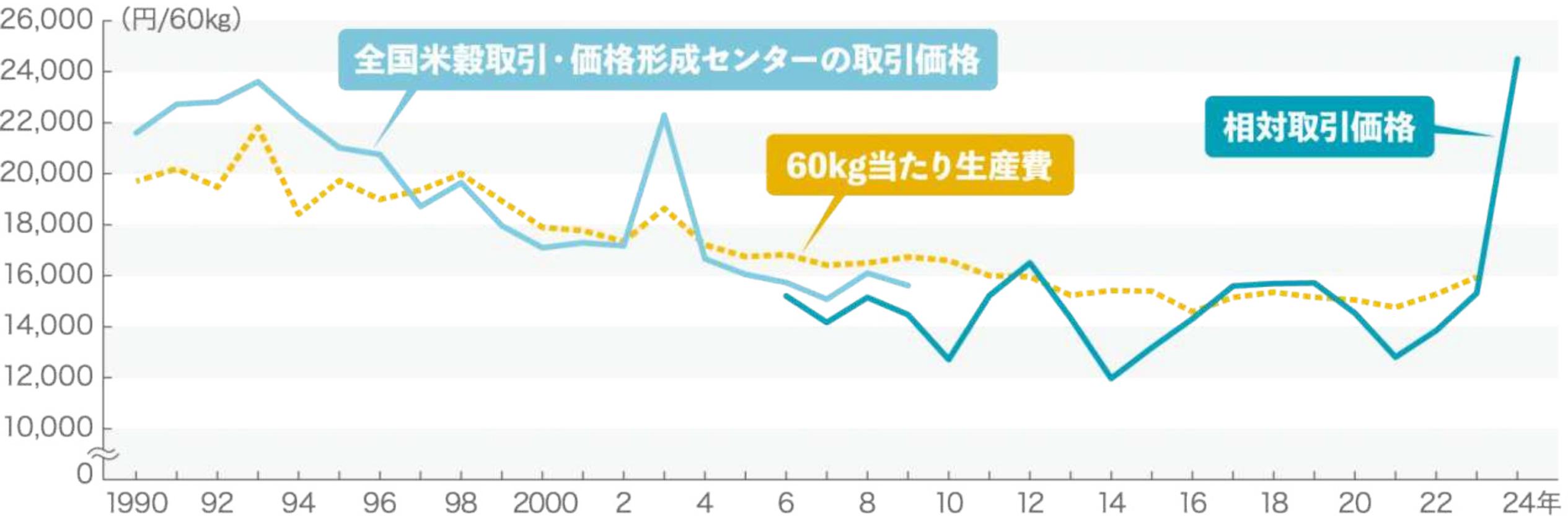
農業所得を見ると…



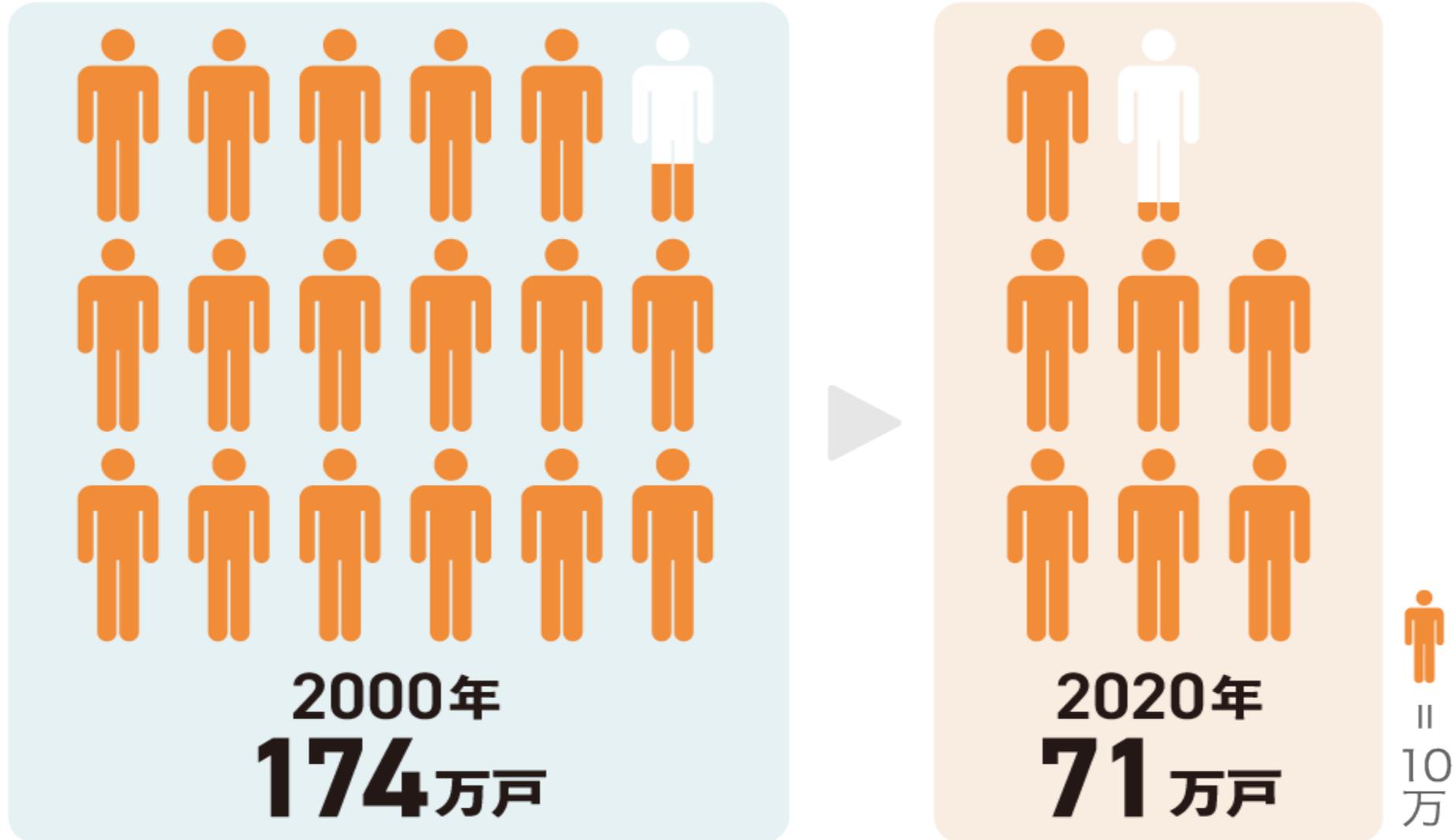
5ha未満の農家は 赤字経営が続く



近年は米価が低迷し、生産費を下回っている



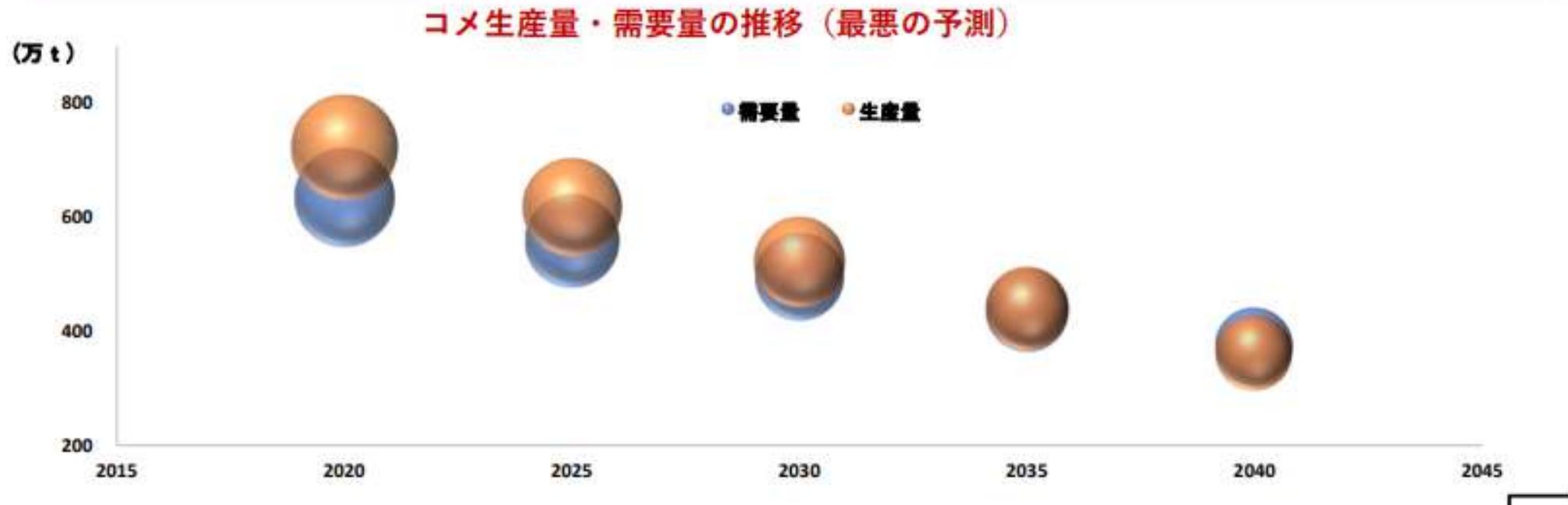
米農家の戸数は20年で6割減った



コメ需要 2040年におけるコメの国内需要は**375万t** (2020年比**41%減**)

コメ生産 2040年におけるコメ生産者は**30万人**程度 (2020年比**65%減**)

2030年代に **国内需要量を国産だけでは賄いきれなくなる可能性あり**



出典：「米穀流通2040ビジョン概要版」全米販、2024年6月



(i) 土砂崩れを防ぐ機能

(ii) 土の流出を防ぐ機能

(iii) 地下水をつくる機能

(iv) 農村の景観を保全する機能

(v) 洪水を防ぐ機能

(vi) 癒しや安らぎをもたらす機能

(vii) 文化を伝承する機能

(viii) 川の流れを安定させる機能

(ix) 暑さをやわらげる機能

(x) 生きもののすみかになる機能

(xi) 体験学習と教育の機能